

昆虫類

長野県中川村と上村で
トワダオオカを採集

四方 圭一郎

トワダオオカ *Toxorhynchites towadensis* は、自然度の高い自然林内の樹洞で、他のカ類の幼虫を捕食して生活する極めて大型のカである(伊藤, 1977; 安田, 1996など)。本種は衛生害虫であるカ類の天敵としても注目され、また地域の自然度を調べる時の指標種となる可能性もあり注目したい種であるが、その詳細な分布は明らかになっていない。

長野県伊那谷において、以下の2カ所で本種を採集しているのので、分布記録として報告する。採集者は筆者、標本は飯田市美術館に保管してある。

1 ex. 中川村桃里1.2kmNE (標高650m), 5. VI. 2003

1 ex. 同所, 25. VI. 2003, (目撃)

四徳川沿いのキャンプ場内で、原生的自然環境ではないが、ケヤキやヤナギ類の大径木が生育している。ケヤキの幹に静止していた個体を採集した。目撃したのはヤナギ類の樹幹に静止していた個体。

1 ex. 上村程野お池 (標高1550m), 16. VII. 2003

採集地点は、ミズナラ、ブナなどがみられ自然林がよく保存されている場所である。

本種は極めて大型のカであるが、昆虫収集者にとっては興味対象外であるため、これまであまり注目されてこなかったことが、記録の少なさにつながっていると思われる。県内には広く分布していると思われるので、今後さらに調査を続けたい。

引用文献

伊藤修四郎, 1977, カ科. 伊藤修四郎ほか編「原色日本昆虫図鑑下巻」, 237, 保育社.

安田弘法, 1996, 捕食性トワダオオカの生態. インセクトリウム, 33(2), 18-27.

(しかた けいいちろう/飯田市美術館)

ハチモドキハナアブ族2種の
長野県伊那谷からの記録

四方 圭一郎

ハチモドキハナアブ族は、日本から3属3種が知られており、どの種もドロバチ類に極めてよく似た外観をしている興味深い種である(大原, 1997)。しかし、これまで長野県内からの報告は極めて少なく、特にヒサマツハチモドキハナアブは、わずかに木曾谷から記録があるのみと思われる(永井, 2002)。

筆者は、伊那谷において2種の生息を確認したので報告する。採集者は筆者、標本は飯田市美術館に保管してある。

ハチモドキハナアブ *Monoceromyia pleuralis* (図1左)

1♂2♀ 松川町古町南部台城公園 (標高500m), 22. VIII. 2002; 2♂, 同所, 25. VI. 2003; 1♂, 同所, 21. VII. 2003.

1 ex., 飯田市上川路 (標高440m), 29. VI. 2003, (目撃); 1 ex., 同所, 19. VII. 2003 (目撃)

どちらの生息地も樹液のしみ出たクヌギかみられ、このような木の周囲でみられた。

ヒサマツハチモドキハナアブ *Ceriana japonica* (図1右)

2♂, 中川村桃里NE1.2km (標高650m), 5. VI. 2003, ヤマウコギの花に飛来した個体を採集。

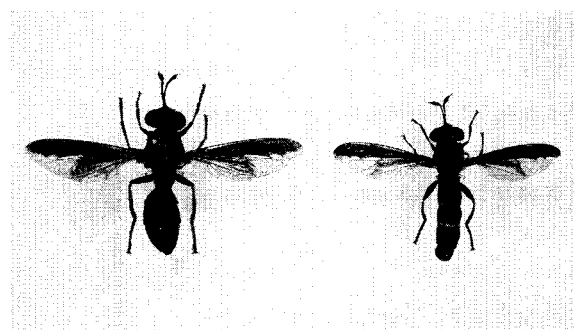


図1 ハチモドキハナアブ族の2種(左:ハチモドキハナアブ♀, 右:ヒサマツハチモドキハナアブ♂)

引用文献

永井信二, 2002, 長野県木曾郡のハナアブ類2. はなあぶ, 14, 45-46.

大原賢二, 1997, 今月の虫(ケバカハチモドキハナアブ). インセクトリウム, 34(3), 23.

(しかた けいいちろう/飯田市美術館)